

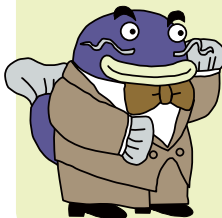
(1) 津波について 知っておこう

津波から助かるためには、津波をよく知ることが大切です。

津波の注意すべき特ちょう

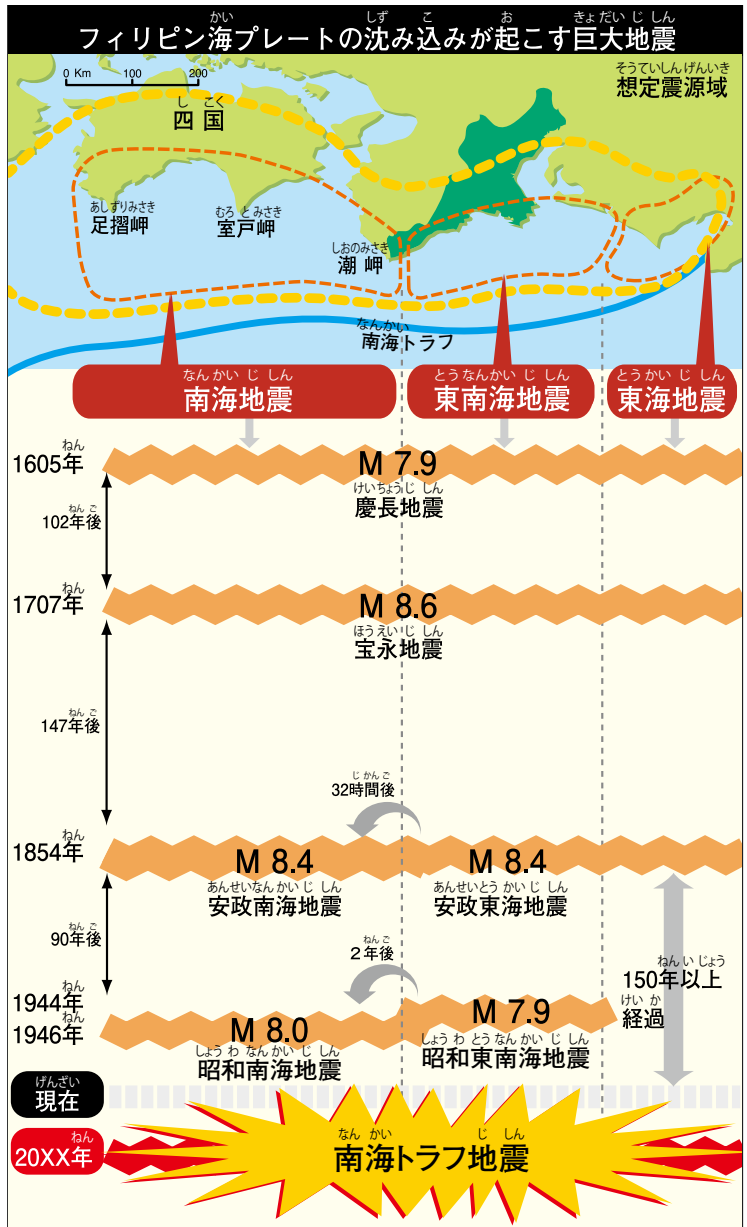
- ① 津波は、地震が起きてから、まもなくおそってくることもある。
- ② 津波はジェット機並みの速さでおしよせてくる。(海上の場合、例えば、深さが5,000mのところではジェット機と、また、深さが500mのところでは新幹線と、深さ50mのところでは自動車と、同じくらいのスピードで伝わってくる。)
- ③ 津波は、くり返しおそってくる。第一波が最大とはかぎらない。
- ④ 津波は、場所によって、高さがちがう。
- ⑤ たとえ30cmていどの津波でも、立ってられないほどの力がある。
- ⑥ 津波は、海から川をさかのぼる。(津波は、陸の上よりも、川や水路の方が速さかのぼるため、思いがけない場所からおそってくることもある。だから、川や水路の近くを避難することはさける必要がある。)
- ⑦ 津波が来るときは、最初に潮が引くとはかぎらない。

津波の大きさは、地震の大きさなどによってちがってきます。「昔起きた津波は、家まで来なかったから、今度も来ないだろう」とは絶対、思っははいけません!



津波が来そうなら、高い場所へにげましょう!

三重県では、現在も含めて近い将来、南海トラフ地震の発生が心配されています。



将来的な地震発生確率の推移

【南海トラフ地震(地震規模:M8~M9クラス)】

今後10年以内の発生確率 30%程度

今後30年以内の発生確率 70~80%

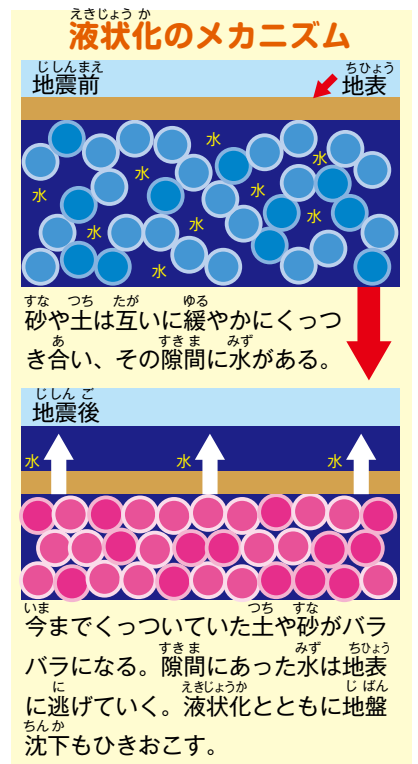
今後50年以内の発生確率 90%程度もしくはそれ以上

地震調査委員会による長期評価(2019年1月1日現在)

(2) 液状化について 知っておこう

海をうめたてた土地など、地ばんに水分が多い砂地の場所では、地震のときに「液状化」とよばれる現象が起こることがあります。

ふだんは砂つぶどうしがかみ合って水分の多い地ばんを支えています。地震の強いゆれによって砂つぶのかみ合いがはずれ、間にある水の圧力が高まります。そうすると、地ばんがどろ水のようにになってしまい、地面から砂や水がふき出します。砂つぶどうしの間にあった水がなくなって地ばんが沈みこむため、建物が傾いたりマンホールが浮き上がったりますので注意が必要です。



(3) 土砂災害について 知っておこう

台風や突然の大雨、地震により、山の津波といわれる土砂災害が発生する場合があります。住んでいる地域の市町が発表する避難に関する情報を正しく知り、早めに避難することが大切です。

土石流



山、川の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へ押し流されます。また、直進する性質がありますので、沢の出口などが危険です。

地すべり



粘土などのすべりやすい地層に地下水が作用して、地面がゆっくりすべて動き出します。極めて緩慢に起こり、広い範囲にわたって被害をもたらすのが特徴です。

がけ崩れ



集中豪雨などにより急な斜面が崩れ落ちます。崩れ落ちるスピードが速いため、早めの避難が必要です。

土砂災害の前ぶれ

- ①川の流れがにごり流木が混ざりはじめる。
- ②斜面から水がふきだす。
- ③地面にひび割れができる。
- ④沢や井戸の水がにごる。
- ⑤雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- ⑥わき水が止まる。
- ⑦地鳴りがする。
- ⑧山鳴りがする。
- ⑨くさった土のおいがする。
- ⑩立木がさける音や石がぶつかり合う音が聞こえる。など